

平成29年12月期



決算説明会用資料

ダイトロン株式会社

証券コード: 7609

**連結決算概要について
(業績結果及び見通し)**



代表取締役社長 前 績行

17/12期 業績結果

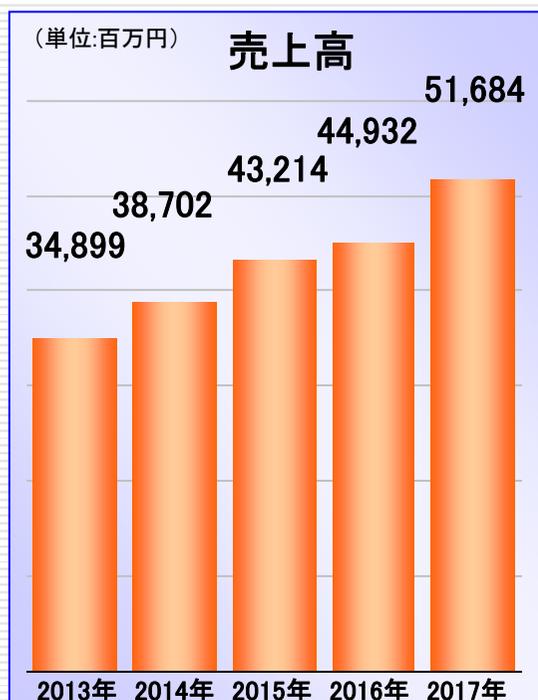


■ 売上高 **51,684百万円**
(前年比 115.0%)

■ 営業利益 **2,522百万円**
(前年比 132.0%)

■ 経常利益 **2,583百万円**
(前年比 138.6%)

■ 当期純利益 **1,867百万円**
(前年比 153.5%)



17/12期 財政状態、キャッシュ・フローの状況



連結財政状態

総資産
35,383百万円
(3,315百万円増)

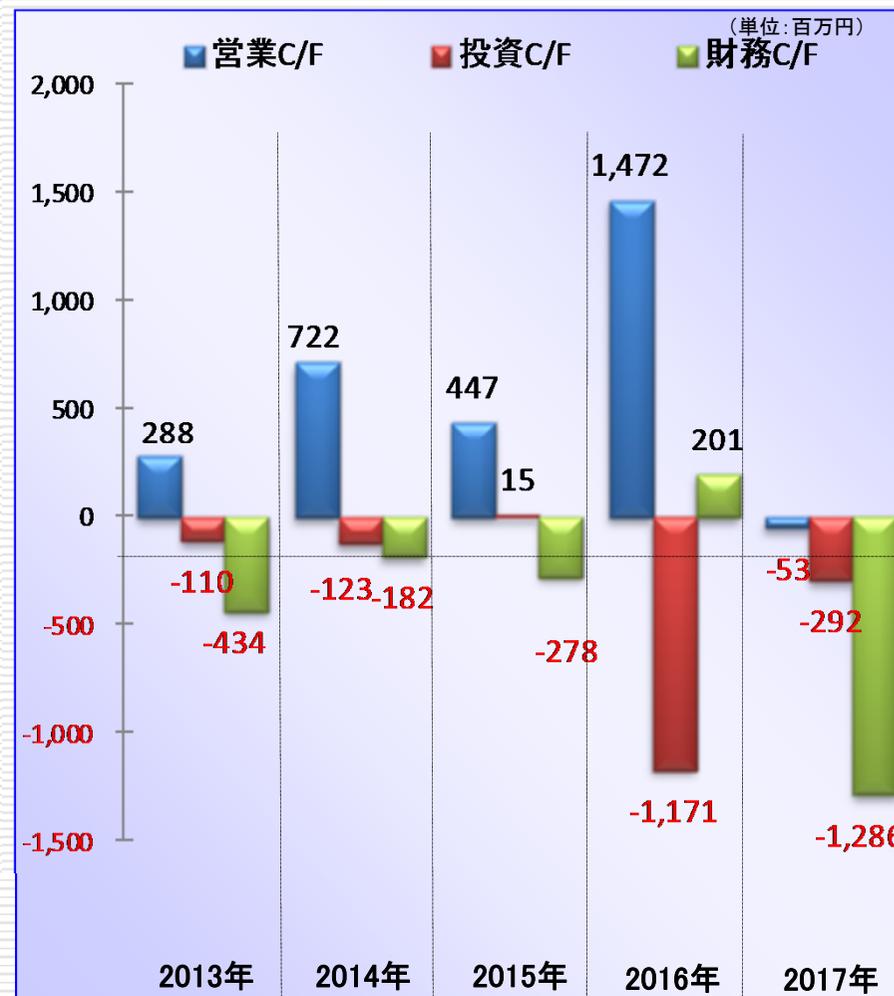
負債
19,890百万円
(1,736百万円増)

純資産
15,492百万円
(1,578百万円増)

総資産・純資産・自己資本比率



連結キャッシュ・フローの状況

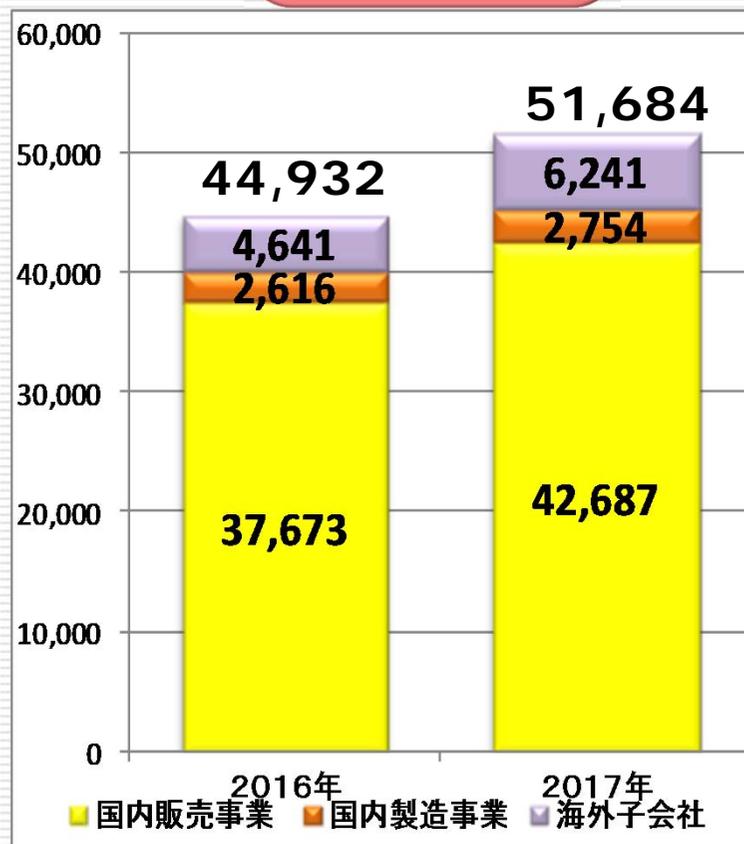


17/12期 セグメント別概況



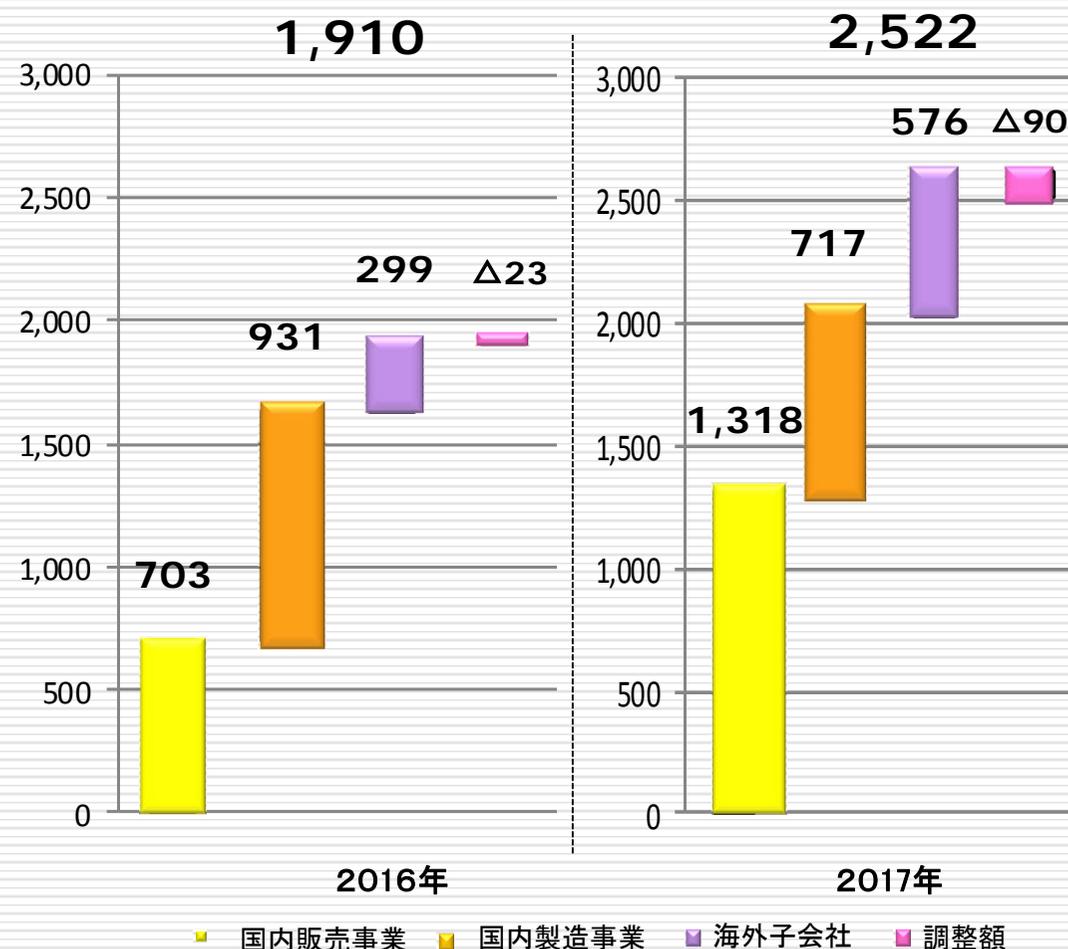
売上

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



(注)セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販管費及び一般管理費です。

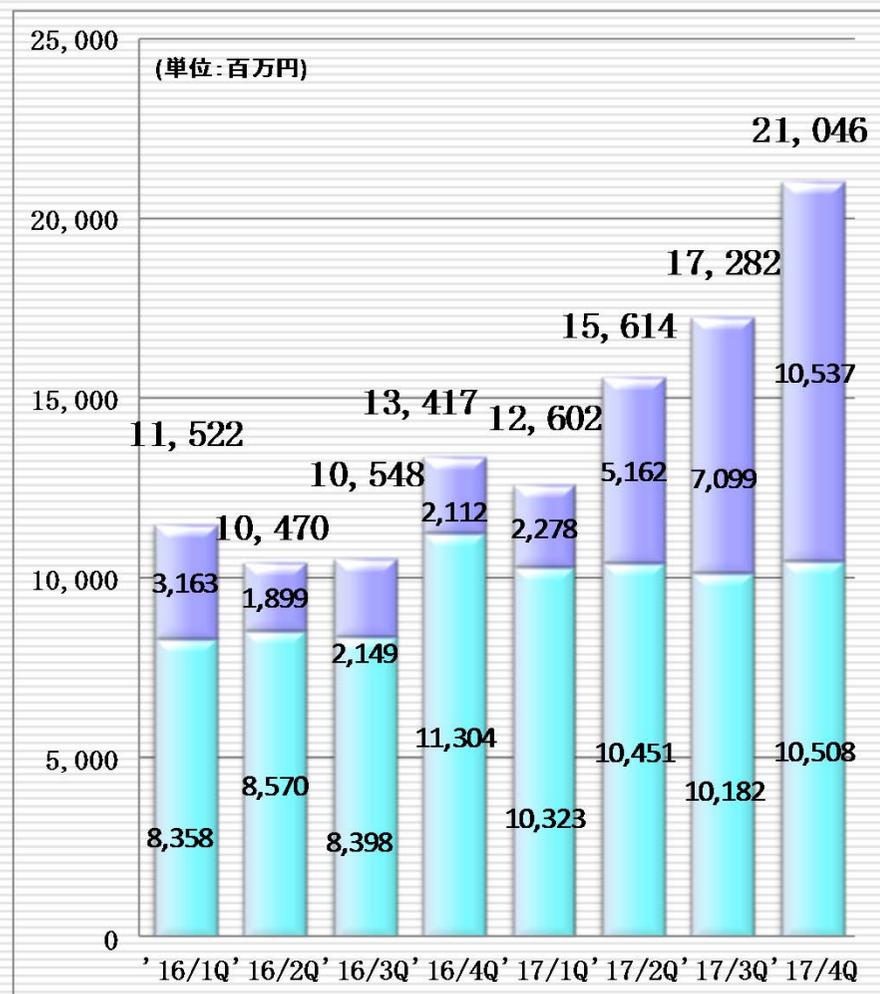
17/12期 当社の事業構造



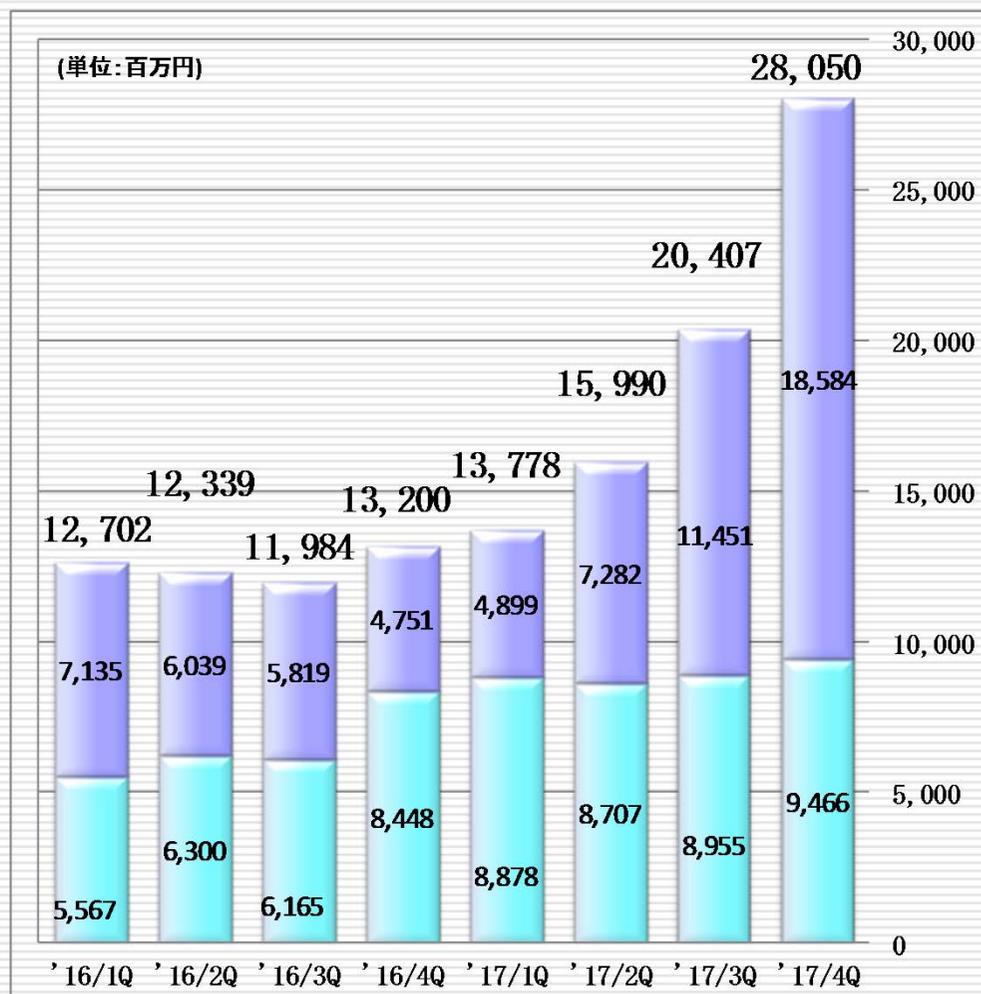
事業	商品セグメント別	売上高構成比	総利益率	オリジナル 製品比率	海外売上比率	
電子機器・部品	電子部品&アセンブリ部品	29.7%	23.7%	24.2% (前年同期: 24.0%)	北米 3.5% (前年同期 2.9%)	
	半導体	4.9%	21.6%			
	エンベデッドシステム	7.0%	15.1%			
	電源機器	7.6%	24.7%		24.2% (前年同期: 24.0%)	欧州 0.3% (前年同期 0.4%)
	画像関連機器・部品	22.8%	17.7%			
	情報システム	4.6%	26.1%			
	電子機器・部品のその他	1.6%	14.4%			
製造装置	半導体・FPD製造装置	8.4%	22.7%	24.2% (前年同期: 24.0%)	アジア 15.7% (前年同期 13.0%)	
	電子部品製造装置	9.8%	32.8%			
	製造装置その他	3.6%	16.9%			
全体		100.0%	22.2% (前年同期:22.4%)	24.2% (前年同期:24.0%)	19.5% (前年同期:16.3%)	

■ は、当社オリジナル製品を含んだ商品セグメントとなっております。

受注高



受注残高



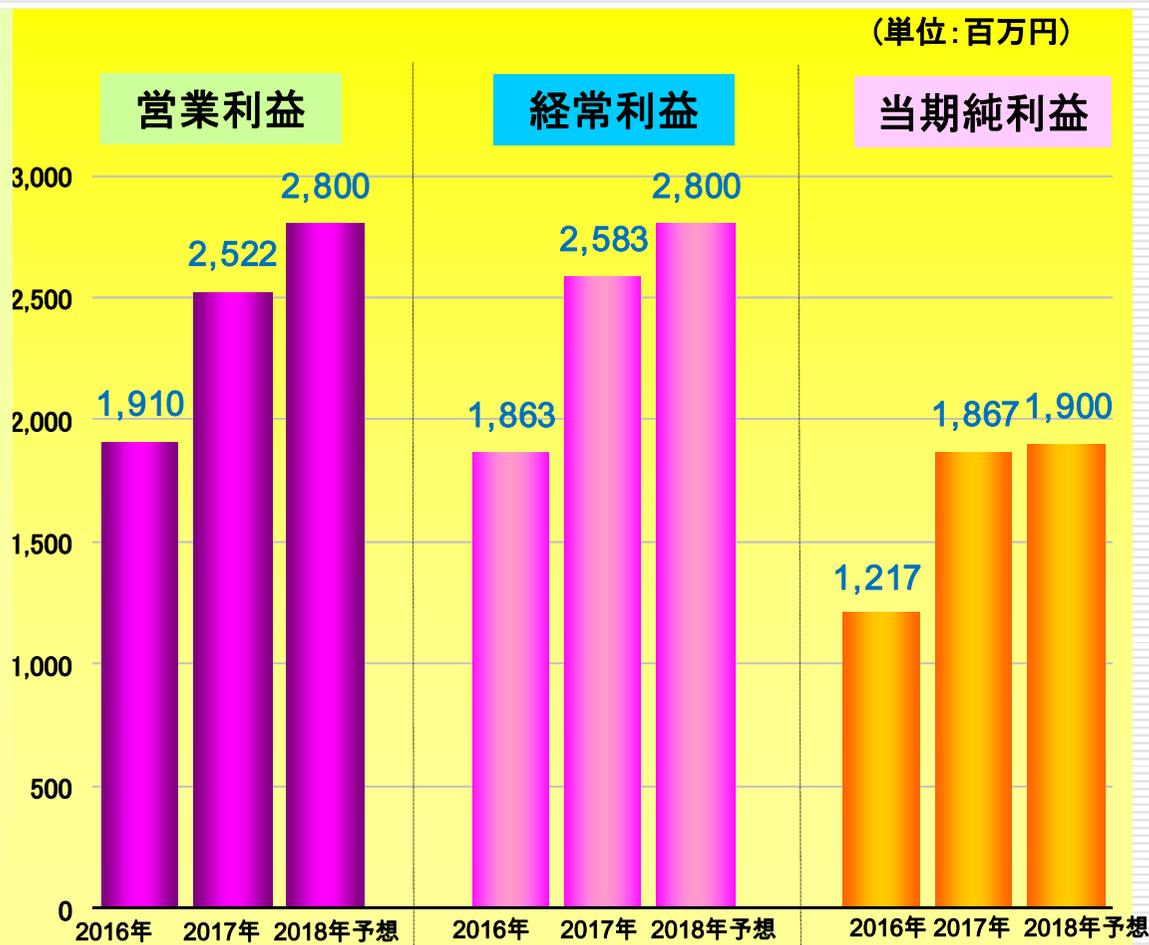
■ 電子機器及び部品

■ 製造装置

18/12期 連結業績見通し



(単位:百万円)



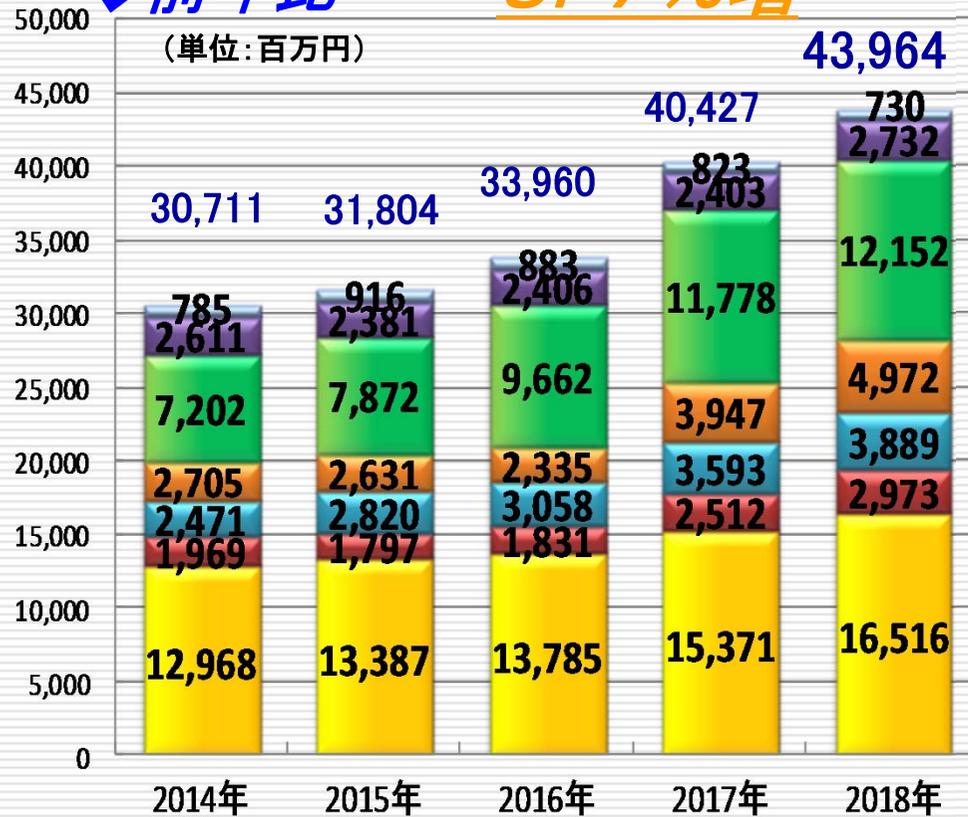
18/12期 商品セグメント別業績見通し



電子機器及び部品関連

■売上高 **43,964百万円**

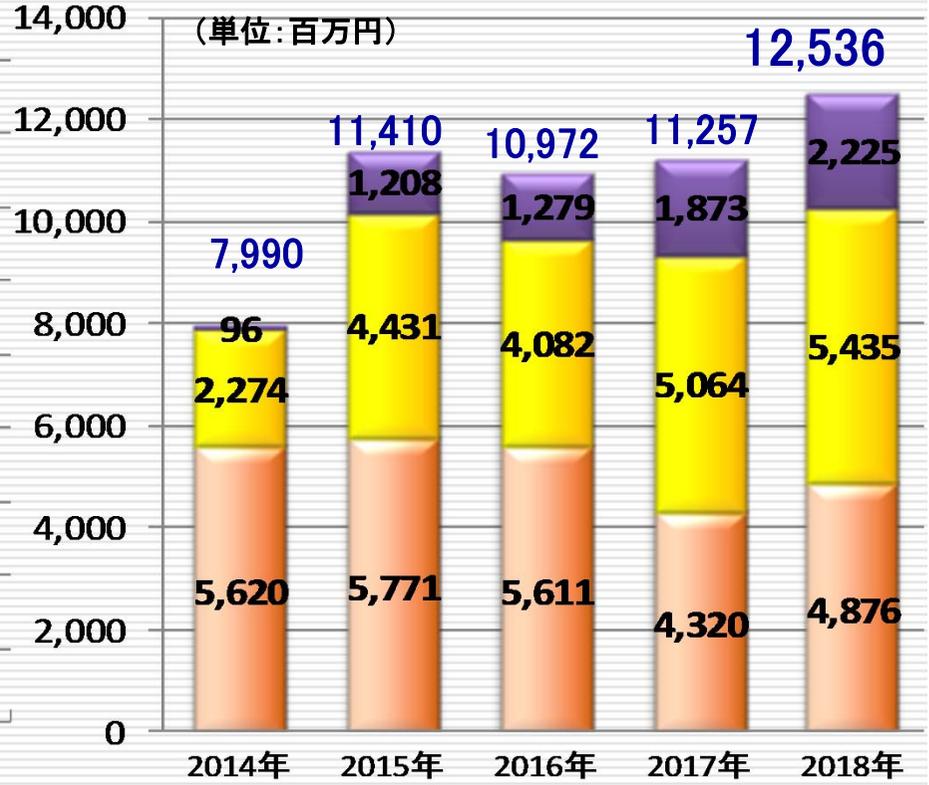
◆前年比 **8.7%増**



製造装置関連

■売上高 **12,536百万円**

◆前年比 **11.4%増**



- 電子部品&アセンブリ
- 電源機器
- 電子機器・部品のその他
- 半導体
- 画像関連機器・部品
- 情報システム
- エンベデッドシステム

- 半導体・FPD製造装置
- 電子部品製造装置
- 製造装置その他

製造装置関連に関しましては、2015年より商品セグメントを見直した関係で、新商品セグメントで表記しております。

18/12期 減価償却費・設備投資額・研究開発費

(単位:百万円)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 予算	前年比 (%)
減価償却費	385	353	356	408	423	103.8
設備投資額	218	332	1,244	436	992	227.6
研究開発費	141	139	167	150	250	166.0

第9次中期経営計画(9M)



1 新グループ・ステートメント

Creator for the *NEXT*

エレクトロニクス業界を担う企業として、グループのネットワークを活かし、新しい価値を創造する決意の表明

対外的メッセージ

「グローバルな観点で市場を捉え、お客様ニーズの一步先の価値を創造し、提供する」という意志を表明

社内的メッセージ

「常に次なる事業を創造し、さらなる成長のステージへ挑戦する」というスピリットを表明

N : Network

E : Engineering

X : (Synergy)

T : Trading

**「製販融合路線」により、
更なる成長を目指す**

3 目指す姿

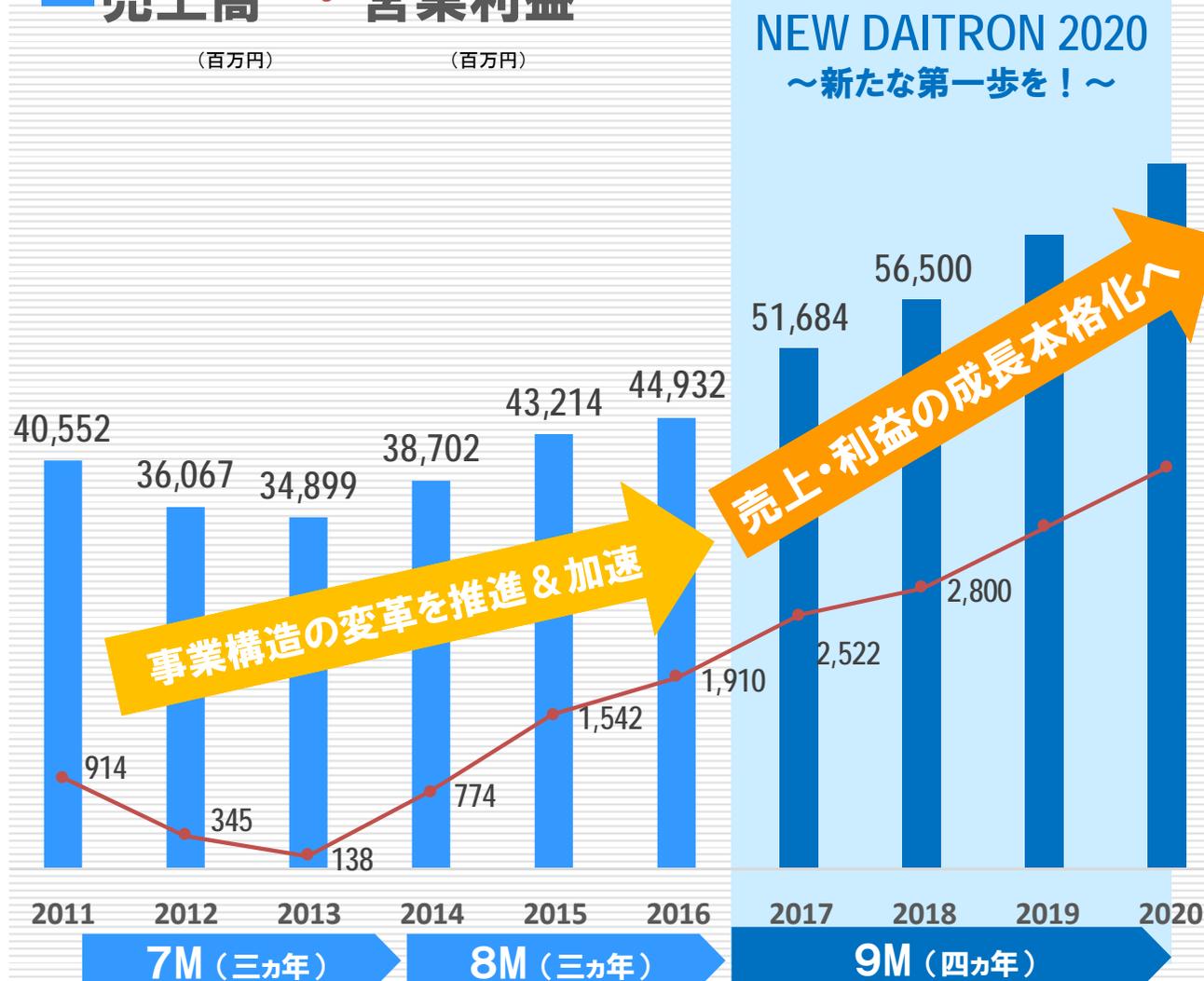
- **製販融合の、他に類を見ないユニークな企業**
 - 顧客から見た場合「頼もしく」、仕入れ先から見た場合「安心感」のある
 - 商社の「ダイナミズム」とメーカーの「可能性・着実性」を併せ持った
- **業界にとって、なくてはならない特徴ある技術・製品を有する企業**
- **社員にとって、働き甲斐があり、誇りに思える企業**
- **一致団結の強さと同時に自律能動的に動く組織**

1) 数値目標(連結)

■ 売上高 ● 営業利益

(百万円)

(百万円)



【2020年 数値目標】

売上・利益の持続的な
成長により
過去最高実績を越えて
更に先の成長を目指す

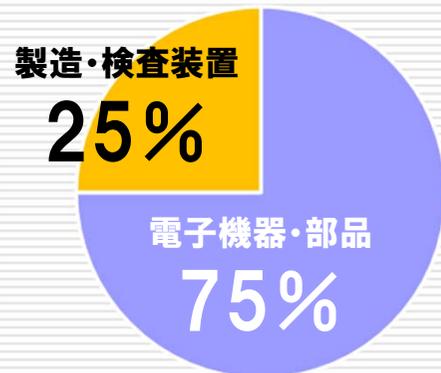
【目標とする経営指標】

- 自己資本比率
50%
- ROA
4%以上
- ROE
8%以上

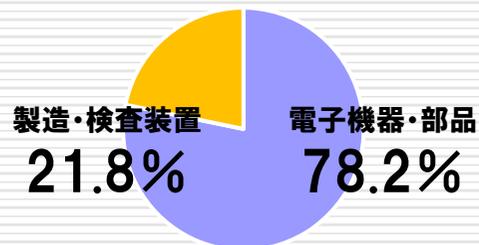
2018年(9M2年目) 2)事業構造の状況(連結)

部門別構成比 (売上高ベース)

【2020年 目標】

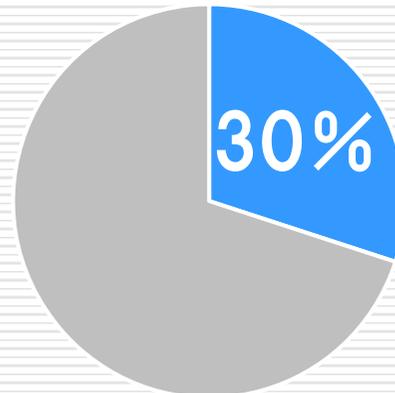


【2017年度実績】

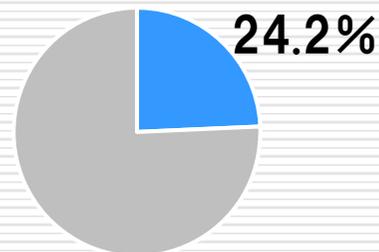


オリジナル製品比率 (売上高ベース)

【2020年 目標】

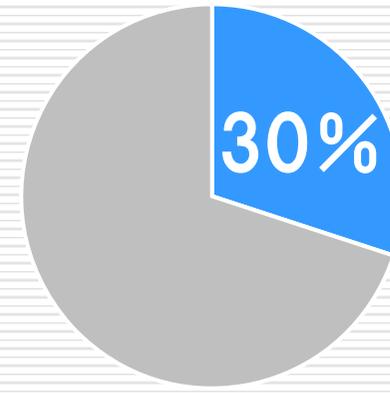


【2017年度 実績】

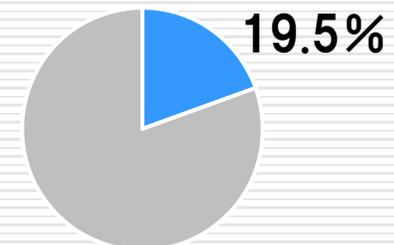


海外事業比率 (売上高ベース)

【2020年 目標】



【2017年 度実績】



【基本方針】

**長期ビジョン(基本構想)の実現に向け
製販融合路線を目指す新たな枠組みのもとで
3社統合効果(シナジー)の最大化を図る**

【基本戦略】

- ① **成長性重視の事業再構築を推進**
- ② **オリジナル製品開発の強化**
- ③ **海外ビジネス展開の強化**
- ④ **マーケティング力&営業力の向上**
- ⑤ **生産部門の統合強化**
- ⑥ **組織力&人材力の強化**

2018年(9M2年目)における各基本戦略のポイント ①

1. 成長性重視の事業再構築を推進

- (1) オートモーティブ → ADAS、EV関連での事業拡大
- (2) メディカル → 製薬業界、消耗品関連の事業拡大
- (3) ロボティクス → 市場拡大するグローバル化への対応

2. オリジナル製品開発の強化

- (1) 独自技術・現行ラインナップ製品のブラッシュアップ
- (2) 仕入先との連携強化によるラインナップの充実
- (3) ダイトテック株式会社の立ち上げ

3. 海外ビジネス展開の強化

- (1) 海外事業本部(独立組織)設置によりグローバル化を更に推進

2018年(9M2年目)における各基本戦略のポイント ②

4. マーケティング力 & 営業力の向上

- (1) 汎用半導体の取り扱い拡大により、顧客の企画・設計段階からダイトロン全取扱商品の提案を推進し、売り上げ規模や顧客層の拡充を図る

5. 生産部門の統合強化

- (1) 中部第一工場 各事業(電源、航空機、車両、自動車)の早期収益化
- (2) 中部第二工場の竣工、稼働

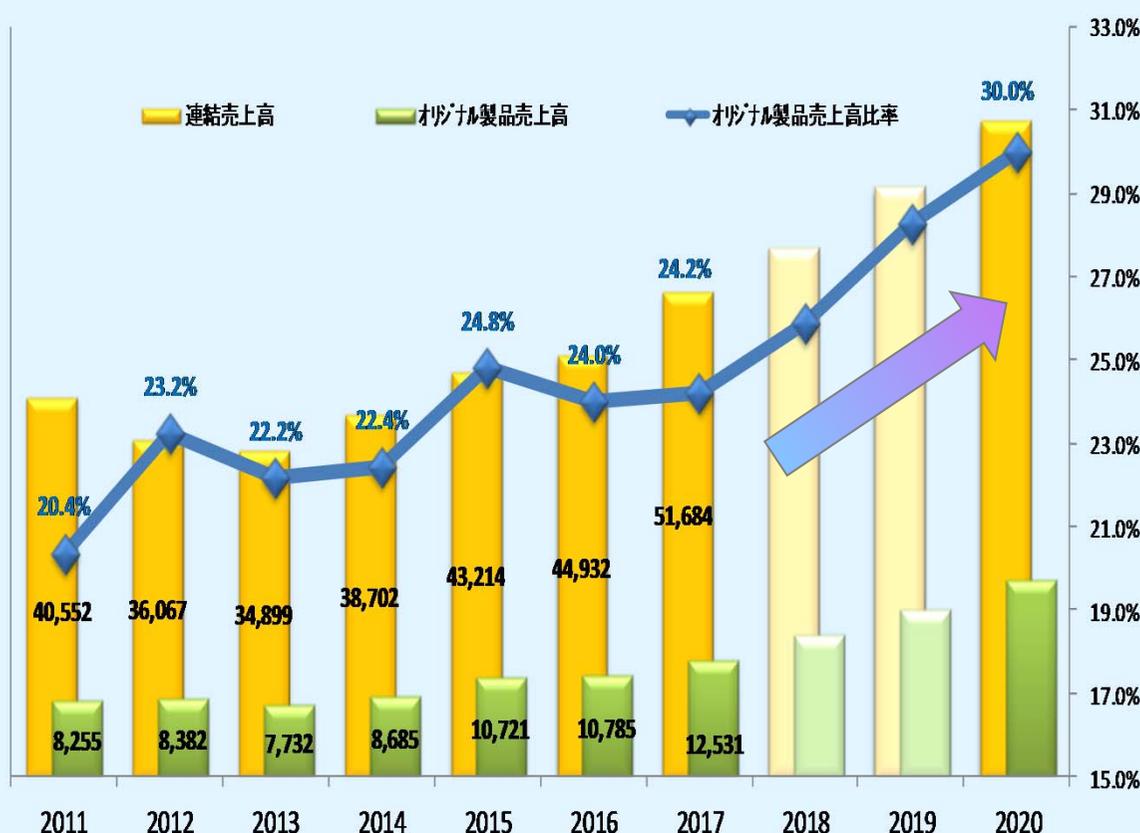
6. 組織力 & 人材力の強化

- (1) ジョブローテーション、キャリアパス制度により人材育成や活性化を図る
- (2) リスクマネジメントの強化

【基本戦略①】オリジナル製品開発の強化



単位(百万円)

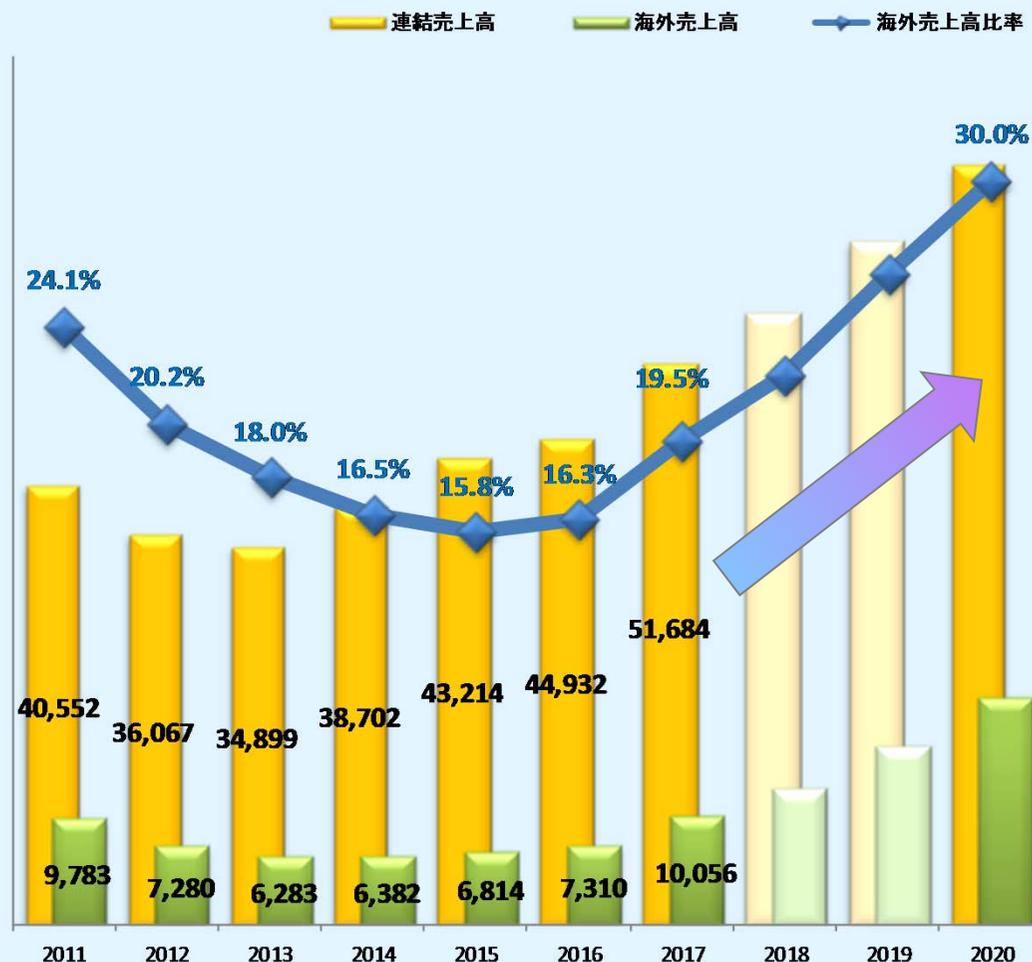


オリジナル製品比率
(売上高ベース)
2020年 30%を目指す

戦略ポイント

- (1) 独自技術・現行ラインナップ製品のブラッシュアップ
- (2) 仕入先との連携強化によるラインナップの充実
- (3) ダイトテック株式会社の立ち上げ

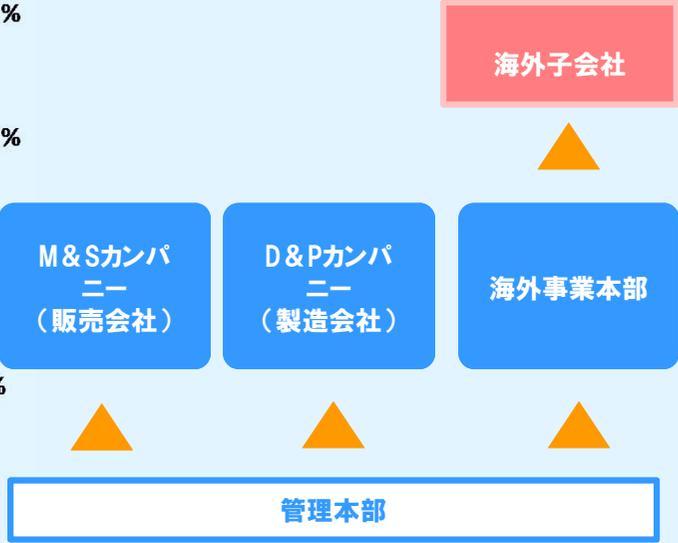
【基本戦略②】海外ビジネス展開の強化



海外売上高比率
(売上高ベース)
2020年 30%を目指す

戦略ポイント

・海外事業本部(独立組織)設置によりグローバル化を更に推進



【基本戦略③】マーケティング力 & 営業力の向上 **Daitron**

戦略
ポイント
1

国内外における 販売ネットワーク拡充

- 【国内】●東北地方 ●四国地方 など
- 【海外】●ベトナム ●インド
●欧州 など



戦略
ポイント
2

既存市場における プレゼンス向上

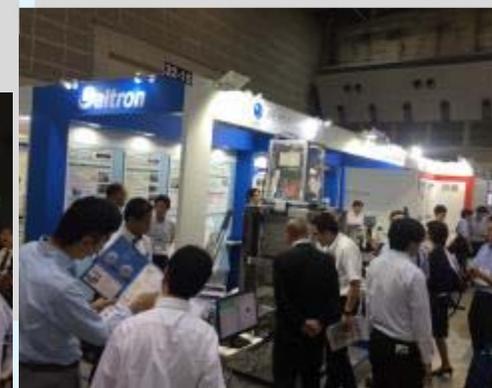
商品ラインナップ拡充による
提案機会の拡大

汎用半導体商品
の取扱いを
拡大

顧客の設計・企
画の段階から
アプローチ

顧客層の拡充
によるDaitron
ブランドの提案
機会の拡大

カーエレクトロニクス技術展



インターフェックス展

中部工場 (愛知県一宮市)

ダイترونグループの
基幹工場として新設

製造と開発の 中核拠点へ



(1)中部第一工場 各事業(電源、航空機、車両、自動車)の早期収益化

(2)中部第二工場の竣工、稼働

【第1期】電子機器・部品関連生産体制

⇒ 2016年11月～稼働

【第2期】装置関連生産体制

⇒ 2018年度内の稼働開始を目指す

技術で立つ会社へ

新生・ダイترونグループは、
3社統合効果の最大化により、
製販融合路線による
エレクトロニクス業界の技術立社として、
独自の進化を目指してまいります。

この資料で述べられている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。

当社が位置するエレクトロニクス業界の電子機器・部品産業並びに製造装置産業は、テクノロジーの変化やスピードが大変速く、競争の激しい産業です。また、北米やアジア諸国の経済情勢など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

従いまして、今後、当社の業績の見通しが本資料と異なる可能性があることをご含みおき下さい。

《本資料並びにIRに関するお問い合わせ先》

経営システム部 広報・IR担当

TEL:06-6399-5952

FAX : 06-6399-5962

e-mail : kouhou@daitron.co.jp